

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名	淡路こども園		公表日		2026年 3月 23日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	1	十分なスペースがあり、活動内容や子どもの状況に応じて部屋を使い分けている	スペースはあるが、施設の老朽化により壊れていたり使いにくいところがある。子どものスペースは十分だが、保護者利用もあるため、手狭である。保護者のスペースを確保する必要がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	0	子どもの状態によってはマンツーマン対応が必要な場合があるため、その際はフォロー体制を整え、連携して子どもを支援する。	職員数は配置基準を満たしているものの経験者が少なく、子ども一人ひとりに十分関われないこともあるため、今後は配置や業務の工夫、研修を通じて柔軟で丁寧な支援体制の実現を目指したい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	1		施設にはバリアフリー化が十分でなく、老朽化による設備の不具合も多いため、車イスや足の不自由な子どもも安心して過ごせるよう、安全で使いやすい環境整備が必要である。将来を見据えた全面的な設備改修工事を行う予定。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	1	建物が古いため、掃除や整理整頓を行い、少しでも快適に過ごせる環境を整えている。	安全で使いやすい環境整備が必要である。将来を見据えた全面的な設備改修工事を行う予定。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	1	子どもの特性や状況に応じ、現状の設備の中で臨機応変に部屋を使用している。	寒暖に対応しにくい環境や、子どもが落ち着ける空間の不足を踏まえ、安全で快適に過ごせる環境づくりを目指す。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	1	PDCA サイクルを意識して業務に取り組みよう心がけている。	情報が全職員に十分周知されていないという意見があったので、PDCAサイクルを周知し、会議や共有ツールを用いる等して、全員が理解・実践できる体制をつくる必要があ
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	全職員で評価表を確認し、保護者の意向を把握した上で、具体的な改善策について話し合っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	2	職員会議、主担会議、朝礼、終礼で職員の意見等を把握するように努めている。	面談の機会を増やし、職員の意見を積極的に吸い上げることで、業務改善につなげていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	4		中核的機能強化に向けて、第三者評価の導入について前向きに検討したい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0	施設内・法人内・外部の研修など、多様な学びの機会を提供している。	法人内での研修はあるが、外の研修を受ける機会やそれを評価されることはあまりないと感じる。放デイ職員の勤務時間が研修時間と重なる場合があるため、体制を整え参加できるように努めている。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	1	プログラムは複数人で話し合い原案を作成し、子どもや保護者に提示して意見や要望を聞き、了承を得た上で実施している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3	1	保護者だけでなく子ども本人のアセスメントを行い、ニーズや状態に応じた支援計画を作成するよう努めている。	内容についてはブラッシュアップされるように改善に努め、職員内での共有と保護者の意向を日頃から把握するようにして作成したい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	1	子どもに関わった職員の意見を聞き、児童発達支援管理責任者が保護者のニーズも把握した上で、本人主体の視点で支援内容を検討している。	時間の確保が課題ではあるが、子どもを中心とした支援の実践に向けて、今後さらに工夫していきたい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	1		職員全体で共通理解をするために支援計画をもとにケース討議を今後さらに積み重ねていきたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	0	子どもの状態や状況は、フォーマル・インフォーマルなアセスメントをもとに確認している。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	0	年齢が上がるにつれて『移行支援』や『地域支援』の視点が必要となるため、職員が日頃からその意識を持てるよう、定期的を確認している。	今後さらに個々に適した支援内容を作成し、職員全体でねらいを共有し、子どもを支援できるよう努めていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	0	中心となる職員がプログラム案を作成し、他の職員の意見も取り入れて完成させている。	曜日ごとに内容を工夫し、職員間で振り返りを行う。子どもが主体的に意見を発信する機会を積極的に設け、新しいプログラムも取り入れるよう努めている
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	0	季節や時期、子どもの年齢に応じて、同じ活動でも内容を変えるなど工夫している。	日ごとに内容を工夫し、職員間で振り返りを行う。子どもが主体的に意見を発信する機会を積極的に設け、新しいプログラムも取り入れるよう努めていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	1	子どもの発達状況に応じて、個別と集団の活動を組み合わせ支援計画を立て、柔軟に対応している。	集団活動、個別活動の両方について子どもの状況の変化を日々振り返り、必要な支援や配慮につなげたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	1	支援開始前の打ち合わせが難しい場合は前日に行うなど、できる限り工夫して時間を確保している。	話し合いの時間が取れない時は、連絡ノート等の共有ツールを用いて情報共有を行い、職員間で共通認識をもてるようにする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	1	全員が揃わなくても、気付いた点や改善点、子どもの状況などを情報共有するようにしている。	対面だけでなく他のツールも利用して振り返りと次の課題、目標の共有をしていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	0	若手職員へのフィードバックをはじめ、職員間のコミュニケーションを通じて支援内容の検証を行っている。	検証・改善に向けた十分な時間の確保が難しいが、情報共有ツールなどを用いて今後さらに取り組んでいきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0	家族支援を通じて本人の状況を細かく把握し、発達に応じて支援内容を見直している。	十分なやりとりが難しいケースについては、その背景を十分検討し、支援を通して職員と家族が改善の手ごたえを共有できることを目指す。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	3	1		
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	0	本人が意思決定できるよう、日頃から気持ちに寄り添い、思いを表現できる姿勢で関わることを職員全体で心がけている。	より一層、気持ちや思いに寄り添い、それぞれの子どもの発達状況に応じた意思決定支援を行っていきたい。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	1	家族支援を通じて本人の状況を細かく把握した職員が参加している。	体制上、求められる職員の参加が難しい場合は、十分な引継ぎや情報共有を行う。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	1	関係機関と協力し、本人や家族の支援を行えるよう、ケース会議の開催や参加を心がけている。	各関係機関の担当者の方と、顔なじみの関係を築き、今後さらに連携を深めていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	1	学校の先生とも日頃からコミュニケーションを取り、相談しやすい関係を築くよう心がけている。	子どもが安心して過ごせるよう、連携をさらに深め、協力関係のもとで支援を行っていきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	1	子どもの情報を詳しく聞き取り、保護者も含めて安心して利用できるように努めている。	子どもが安心して過ごせるよう、連携をさらに深め、協力関係のもとで支援を行っていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	0	相談支援と連携し、引き継ぎを丁寧に行い、本人や家族が安心して移行できるよう対応している。	今後も移行先施設と連携し、情報共有を行うことで、安心して移行できるように努めていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	0	センターとして運営しているため、日常的に密な連携がとれている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3	平日は時間的に交流が難しいが、土曜日や長期休みにはなるべく地域に出て活動するようにしている。地域との交流の機会は多くないが、町会に加入している。	今後は「ふれあいまつり」を地域に開放するなど、住民との交流の機会を広げられるよう努めていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	0	自立支援協議会にセンターとして積極的に参加し、取り組みについての情報交換を行っている。	顔の見える関係を基盤にして、今後も地域福祉の資質向上に貢献していきたい。

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	親子通園で保護者と顔を合わせる機会が多く、お互いにコミュニケーションを取るよう心がけている。	十分な支援が行き届いていないケースについては、今後さらに関係性を深め、保護者の意見や考えを尊重しながら、子どもにとって安心できる環境や関わりのあり方を共に考えて
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1	定期的なグループ相談等を通じて、子どもの立場に立った理解、子育ての悩み、困難への対処、家族の相談力を高める援助などを積極的に行っている。	子どもを中心とした支援を基本としつつ、保護者のニーズを汲みとり、家族の相談力の向上につながるよう取り組んでいきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	本人主体の考え方にに基づき、本人が意思決定する力を育めるよう、本人や家族とその都度確認している。	本人や家族の意向を十分に反映できているか、その都度確認して、不十分な時は適切に対応したい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0	保護者からの相談には迅速かつ適切に対応し、保護者と同じ方向を向いて協力し、子どもの成長を支えられるよう努めている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	4	0	通園の保護者や卒園児の親の会と協力し、交流や勉強会、講演会、イベントを実施している。	きょうだい同士が交流する機会が十分とは言えないので、今後は「きょうだい」に向けた取り組みを実施できるように努めたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0	積極的に保護者とコミュニケーションをはかり、保護者から相談しやすいような関係づくりを心がけている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	0	園便り、HP、インスタグラムの発信をしている。	子どもや保護者により楽しみに見てもらえるよう、内容や更新頻度を上げて情報発信し方を工夫していきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	写真を掲載する際は個別に確認を行い、個人情報や写真の取り扱いについても十分配慮している。	保護者の協力のもと、個人のスマートフォンによる写真や動画の撮影は原則ご遠慮していただいている。子どものプライバシー保護の観点から、今後も継続して取り組んでいく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0	園便りを基本とし、親子通園時のやりとり、個別相談、定期的なグループ相談を通じて、情報の伝達を行っている。	保護者への情報伝達については迅速な対応を意識しているが、十分でない点もあるため、より一層の速やかな共有を図り、安心につながる対応を心がけたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	2	こども食堂へのボランティアを派遣している。	保護者や子どものニーズや意思を確認した上で、地域の公園や行事に参加する機会を増やす。「ふれあいまつり」においては、地域開放に向けた体制整備に努める。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	0	毎月避難訓練を実施し、親子で参加する機会も設けており、保護者にも緊急時の安全意識を高めてもらえるよう努めている。	送迎時の訓練や、施設外での非常時を想定した訓練を行っていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	0	職員研修の際に備蓄品の在庫確認や発電機の使用法の確認を行い、非常災害時に備えて職員間で検討する時間を設けている。	職員全員が、非常時の対応について熟知し、実際に対応できるよう、計画的な研修を行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	0	看護師が中心となって、子どもの健康について情報収集を行い、不明な点については嘱託医にも相談する等して本人や保護者だけでなく職員も安心して療育ができるように配慮している。	緊急時の対応として、看護師不在時には判断や対応を連携医と相談し、指示を受けながら対応するようにする。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	0	療育現場の職員、看護師、厨房職員で医師指示書をもとに情報共有し、対応について打ち合わせを行っている。万が一を想定して事前に保護者と対応について確認している。	アレルギー対策は実施しているが、偏りがちな食事提供については、対策を徹底しつつ今後は柔軟にメニューを検討・提供していきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	0		職員一人一人が安全計画についてしっかりと理解したうえで、保護者にも周知の徹底をはかりたい。

52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0	大きな事故やケガに繋がらないよう、その日のうちに情報共有し、対応策についても周知するようにしている。	職員個人の問題に留めず、職員同士で支えあい、協力し合う雰囲気づくりにつながるように継続して取り組む。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0	義務づけられた研修に加え、職員の人権意識を高めるため、会議やミーティングの際に「気になる関わり」の段階で共有・振り返りを行い、虐待につながる可能性のある芽を早期に把握し未然に防ぐよう努めている。	若手職員に対して現場での指導や研修を実施し、子どもへの理解や人権意識を高めることで、一人ひとりの資質向上に努めていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	0	毎月の虐待防止委員会では、実施状況の確認や対応に困った場面の共有を行い、保護者への説明を踏まえて計画に反映している。	若手職員をはじめ、全職員が子どもへの理解や人権意識を高めるべく、研修や職員会議で情報共有を行っていく。